

明治大学 グローバル人材育成推進事業

# 政治経済学部 留学促進プログラム



あなたが、世界の *Piece* になる。







**勝 悦子**  
明治大学副学長(国際交流担当)

明治大学は平成24年度グローバル人材育成推進事業(特色型)の採択校のひとつに選ばれました。すでに本学では、平成21年度のグローバル30(国際化拠点整備事業)採択を契機に、5つの英語学位コースの設置、留学生の受け入れの拡充、日本語教育の拡充、学内文書の英語化、外国

人教員比率の増大など、大学の国際化が大きく進展しました。

グローバル人材育成推進事業では、これらを基盤として、学生の送り出し強化、英語力強化を通じ、タフさ、国際教養などを備えた人材の育成強化を目的としています。政治経済学部を取り組みが中心となりますが、これを大学全体に広げ、全学的な取り組みとしていきます。学生自らが「主体的に学ぶ」ことを重視し、カリキュラムの体系化、質保証の推進、語学力については、ディスカッションや専門分野を学ぶ際に必要な「アカデミックイングリッシュ」の体得を目指します。本学教育理念である、「個を強く」し、現場力、実践力を備えた人材育成は、社会に対する貢献にもなると考えます。



**大六野 耕作**  
政治経済学部長

政治経済学部は、2007年、教職員12名ほどをメンバーとする「国際交流委員会」を設置し、国際舞台で活躍できる人材(国際機関、NGO職員、ジャーナリスト、政治・経済リーダー、研究者)の育成を目指した「留学促進プログラム」を実施してまいりました。この間、短期・長期の派遣留学生は、50名から

200名へ、受入留学生も30名程度から90名程度まで増加しました。また、TOEICの平均点も5年間で80点ほど上昇し、700点を超える学生は350名(全学生の約9%)に達しました。今回、5年間にわたる私ども努力が評価され、文部科学省の「グローバル人材育成促進事業(タイプB)」に採択されたことを心より喜んでおります。

本事業の最大の目的は、政治経済学部がこれまで実施してきた「留学促進プログラム」をさらに充実させる一方で、学部蓄積されたグローバル人材育成のノウハウを、国際連携機構が開発する新たなプログラムを通じて全学に提供することにあります。皆様のご協力、ご支援を心よりお願い申し上げます。

## 明治大学 グローバル人材育成推進事業 構想概要

今後、アジア太平洋地域そしてアフリカ地域を中心として、経済・社会のグローバル化が一層深化し、国境を超えた経済・社会・文化活動が急速に展開することが予想されます。その一方で、平和・環境・人権・災害などの課題もまたグローバル化・複雑化し、既存の専門分野を超えた取り組みが必要となってきます。

明治大学政治経済学部では、これからのグローバル社会に対応するため、強い「個」と高いコミュニケーション能力を有し、他者・多文化への洞察力を備え、それぞれの専門領域において活躍できる人材を育成することを目的とし、先進的な取り組みを行っています。

これらの取り組みを通じて、政治経済学部は明治大学の国際化をさらに推進し、世界に貢献する「グローバル公共人材」育成の拠点となることを目指します。

左記のようなグローバル人材像を踏まえ、政治経済学部へ入学した学生が卒業・修了時に修得すべき具体的能力は、次のようなものです。

### ■異文化に対する洞察力

グローバル社会の中で個となる文化・背景を持った他者の理解力

### ■使命感と倫理観

強い「個」を基調にしつつ「個」に閉じこもらず「個」をつなぐ力

### ■実践的な専門知識

課題解決・現場志向の専門知識

### ■語学的・能動的コミュニケーション能力

他者の意見を理解し自分の考えを効果的に伝える能力

これらの能力を養成するために用意されている教育プログラムについては、以下の体系図やそれぞれの個別説明ページを確認してください。

### 政治経済学部 留学促進プログラム

#### Step 1 学内プログラム

- 留学生サポーター制度(短期受け入れ留学生) …P5
- トップスクールセミナー(国内留学体験) …P11
- ACE(英語学習) …P12

#### Step 2 実践的英語力強化

- カランメソッド …P13
- TOEIC …P13
- TOEFL …P13
- IELTS …P13

#### Step 3 留学プログラム

- UCパークレー・サマーセッションプログラム(3週間～12週間) …P3,4
- リヨン政治学院留学プログラム(12週間) …P4
- 短期留学プログラム(2週間～4週間)
  - ・ノースイースタン大(アメリカ) …P6
  - ・延世大(韓国) …P7
  - ・シーナカリンウィロート大(タイ) …P8
- 長期留学プログラム(短期以上) …P9
  - ・協定留学(大学間・学部間)
  - ・認定留学
- ダブルディグリープログラム(予定) …P10

### 政治経済学部独自の派遣プログラム

**特徴** 単なる語学留学ではない。卒業に必要な単位に認定することができる。 **応募に必要な言語** 英語

| 種 類 | ①UCパークレー・サマーセッション<br>②リヨン政治学院                             | 短期留学派遣<br>(ノースイースタン大・延世大・シーナカリンウィロート大) | 学部間協定留学<br>(シーナカリンウィロート大) | ダブルディグリー・プログラム(予定)<br>(ノースイースタン大) |
|-----|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|
| 時 期 | ①5～8月<br>②2～4月                                            | 夏期休暇期間                                 | 5月下旬より最長1年間               | 2013年9月より開始見込み                    |
| 定 員 | ①制限なし<br>②5～10名程度                                         | 20名程度                                  | 社会科学部・経済公共政策学部・人文学部 各3名   | 若干名                               |
| 期 間 | ①3～12週間<br>②12週間程度                                        | 2週間～4週間                                | 半期または1年間                  | 約2年間                              |
| 単 位 | 留学中に修得した単位を卒業に必要な単位に認定可。                                  | 「海外留学演習」として、2または4単位。修得した単位はGPAに含まれる    | 留学中に修得した単位を卒業に必要な単位に認定可。  | 留学中に修得した単位が政治経済学部の単位として認められる(見込み) |
| 費 用 | ①自費。但し10週以上参加の場合、認定校として助成の予定(2013年度より)<br>②学費免除(2012年度現在) | 自費。大学からの助成有<br>JASSOからの助成も可能性あり        | 協定校のため免除                  | 自費。但し助成がある予定                      |

※留学促進プログラムのホームページでは、各プログラムに参加した学生の動画インタビュー等、様々な情報を発信しています。併せてご覧ください。





# UCバークレー・サマーセッションプログラム

留学がしたい、けど1年間の留学には踏み出せない。そんな学生にお勧めの留学制度が2010年度からスタートしました。世界に名を馳せるアメリカ合衆国の名門大学、カリフォルニア大学バークレー校のサマーセッションプログラムに参加し、修得した単位は本学において認定できる制度です。期間は最長で12週間。10週間以上参加した場合には、本学の認定留学として認められ、明治大学学生外国留学奨励助成金の対象となります。また、政治経済学部は同サマーセッションと公式パートナーシップを締結しているため、優先申し込みができるなど様々なメリットがあります。

カリフォルニア大学の学生以外にも、世界各国から優秀な学生が集まります。世界トップレベルで競い合うことの感覚や、トップスクールに集う同世代の学生の意識を肌で感じることで、チャレンジングかつ貴重な機会です。

## UCバークレー・サマーセッションとは

カリフォルニア大学バークレー校主催の夏期授業プログラムで、バークレー校では正規授業と同じ扱いを受けています。社会科学分野含む600以上のコース授業があり、科目ごとに授業が行われる期間が5つ(セッションA～E)に分かれています。各セッションにはバークレー校ほかカリフォルニア大学の学生だけでなく、世界中の大学生や社会人が参加し、勉学とネットワークづくりに励みます。2013年度以降、学生の派遣を強化し、30名前後の留学を予定しています。

### 2013年授業日程

Session A【6週間】5月28日～7月 3日  
Session B【10週間】6月10日～8月16日  
Session C【8週間】6月24日～8月16日  
Session D【6週間】7月 8日～8月16日  
Session E【3週間】7月28日～8月16日

### 募集期間

例年12月頃に学内選考を行います。選考に通過した学生は、UCバークレー・サマーセッションが設定する各セッションの応募期限までに応募します。例えば、セッションAへの応募は4月5日までです。

### 費用(2013年) 単位:USドル

|     | 入学金 | 国際サービス料 | コース受講料                    | 寮費※1  | 書類管理費 | 合計    |
|-----|-----|---------|---------------------------|-------|-------|-------|
| 6週間 | 335 | 300     | I単位=430                   | 2,557 | 50    | 5,822 |
| 8週間 |     |         | 例)2科目6単位分を履修した場合<br>2,580 | 3,418 |       | 6,683 |

※1 Unit-2 に入居し、2人一部屋。食費込み

### 単位と評価

UCバークレー・サマーセッションで修得した単位は、政治経済学部の類似科目への単位認定申請をすることができます。ただし、すでに履修済みの科目での認定はできません。

### 応募資格

学年は問いません。学内選考を通過した学生は、TOEFL、TOEIC、IELTSまたはiTEPの公式スコアを、サマーセッションへの応募時に提出します。2013年の応募に必要な点数は、下記の通りです。  
TOEIC 685, TOEFL iBT 79-80, IELTS 6.5, iTEP5.0

## カリフォルニア大学バークレー校の紹介

1868年に設置された、カリフォルニア州バークレー市に本部を置く州立大学。アメリカ合衆国西部の名門公立大学群の「パブリック・アイビー」の一角である。カリフォルニア州立大学の中でも最も入学審査が厳しく、最難関として知られている。

### 世界の大学ランキング

Times Higher Education 2012-2013 総合9位  
Academic Ranking of World Universities 2012 総合4位

### ノーベル賞受賞者

72名(現役研究者9名)※

※受賞者総数はデータにより若干異なります



## 政治経済学部との公式パートナー

政治経済学部は2010年度に公式パートナーシップを締結しました。このことにより、学部生は一般学生より早い優先申込みを行うことができます。授業への申し込みは先着順のため、優先的に履修申し込みが可能となるのです。また参加学生数が10名を超えると、参加費の一部のキックバックなど特典を受けることもできます。

## 「バークレーでの学び」 政治学科3年 橋本 真愛奈 県立山形西高等学校卒業

私が受講したある授業には、現地の学生はもちろん、インド、中国、オランダなど各国から集まった約60名の学生がいました。授業中、わからないことがある人はその場ですぐに教授に質問をし、解決します。宿題や授業の予習として教科書や文献を読むことが求められ、授業以外の大半の自由時間はそれらに充てられました。オフィスパワーに教授を訪ねて質問をし、図書館などでクラスメイトと一緒に勉強、それでも休日にはパーティーに参加したり、少し遠くヘドドライブに行ったり。英語が苦手な私は、伝えたいことを十分に伝えられず悔しい思いもしましたが、一人ひとりに個人の主張を尊重する意識があることを感じた、アメリカでの貴重な3か月でした。



# リヨン政治学院 留学プログラム

2012年度よりフランスの社会科学系グランゼコールの1校、リヨン政治学院に留学するプログラムが始まりました。2月初旬より12週間程度の期間、リヨン政治学院が提供する政治学を中心とした専門コース群を受講し、同学院の正規学生やヨーロッパ、アフリカ他各国から参加した学生たちと、世界トップレベルで競い合う感覚を身に付けながら、単位修得をします。受講する専門授業は全て英語で行われます。合わせて、フランス語を初級から受講できる講座にも参加するため、フランス語力の向上や語学学習を目指すこともできます。

また、授業や授業時間外での交流を通じて、様々な国から来た同世代の学生とのネットワークを構築する機会も持つことができます。

## リヨン政治学院の紹介

フランスにおける社会科学系の国立グランゼコール(高等教育)の一つです。グランゼコールはエリート養成機関として知られ、厳しい入学試験が課されます。リヨン政治学院は1948年に創設された機関で、フランスでは数少ない、日本を含めた東アジア研究者が多い機関としても知られています。\*明治大学とは2012年9月に大学間協力協定を締結しました。

### 日程(2012年度実績)

2013年2月1日～4月20日(約12週間)

### 特長

- ・リヨンでは主にサービスアパートメントに滞在。2012年度はシングル利用
- ・リヨン政治学院教員による専門科目の一般講義を英語で受講
- ・レベル分けされたフランス語講座を受講
- ・各専門科目の単位修得とフランス語講座の単位修得など一定条件を満たせば、認定証を得られる

### 講義内容<2012年度参考>

- ・全体テーマ  
France and Europe in the World: Governance, Institution and Culture
- ・科目パッケージ  
Package 1: Politics: French and Europe an politics, institutions, election systems  
Package 2: Urban studies: French and European metropolitan areas, urban policies, international perspectives  
Package 3: Area studies (geopolitical, economical, cultural aspects):  
France/Europe and the Arab world  
France/Europe and central/south America

France/Europe and the US  
France/Europe and Asia  
合計 週24時間分 x 12週  
・フランス語講座  
週8時間 x 12週

### 講義以外のプログラム

- ・リヨン歴史地区ツアーなど街の周遊



### 単位と評価

リヨン政治学院で修得した単位は、政治経済学部の類似科目への単位認定申請をすることができます。ただし、すでに履修済みの科目での認定はできません。

### 応募資格(2012年度)

- ・募集人数:5～10名程度(主に政治経済学部生。政治経済学専攻科博士前期課程から若干名)
- ・応募資格:留学時に原則1～4年生で、以下の条件を満たす者  
①TOEIC 700以上(学内IPテストを含む)程度の英語力を持つもの

\*フランス語能力は問いません



### ✦ 相互派遣を核とした短期留学プログラム

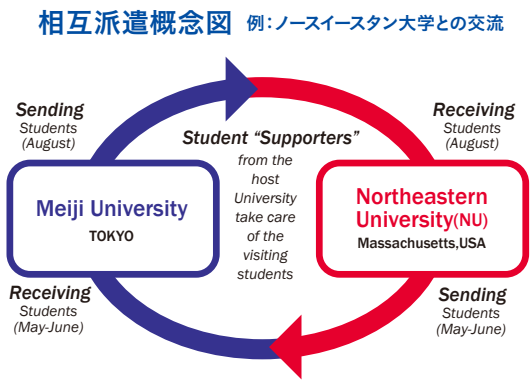
本学部独自の短期プログラムの特長の一つは、交流する大学との間で学生の相互派遣を行うところにあります。

短期留学生の受け入れは、学生の目を「世界に向ける」機会として提供しています。留学生は政治経済学部で講義を受けたり、国会・東京証券取引所などを訪問するときに本学部生が側面からサポートします。また大学のセミナーハウスで寝食を共にしながら、報告会・討論会を行って交流を図る機会もあります。

短期留学生の派遣プログラムは、異文化との接触によって生まれた「気づき」をタイムリーに行動につなげる機会の一つとして提供されています。 海外交流大学に2週間～4週間程度滞在し、同大学講師陣から講義を受けたり、政治経済に関わる周辺諸施設を訪問したり、プログラムによっては企業訪問を行います。サポートをする機会、受ける機会双方を経験し合うことによって、一層深く幅広い学生交流が実施できています。また、このプログラムのもう一つの特長として、英語を学ぶのではなく、英語で行う政治・経済・社会・歴史など

専門分野の講義を受講することにあります。英語力の向上のみならず、英語で議論するために専門分野の知識を深めることが必要であることを理解できるのです。

長期の留学に踏み出す前の「留学体験」をする機会として活用できるため、多くの学生が参加後に長期の留学へステップアップしています。



### 短期受入れプログラム(留学生サポーター制度)

#### ✦ 2013年度短期受入れ予定大学

現在、シーナカリンウィロート大学(タイ)、ノースイースタン大学(米国)、南カリフォルニア大学(米国)と実施している短期留学生受入れプログラムは、コミュニケーション・プレゼンテーション能力に重点を置いた英語教育を受け、留学への思いを形成した学生が、短期受入れ学生を日常的にサポートする「留学生サポーター」の経験ができる機会です。「留学生サポーター」は短期受入れ学生と3日間寝食を

ともにしながらディスカッションを行う山中セミナーハウス合宿や、日々の学習支援や生活サポートの経験を通じて、同世代の学生と相互に異文化理解を深めます。このことをきっかけに、さらに留学への思いを強め、海外短期派遣プログラムやUC/パークレーン・サマーセッションプログラム、1年程度の協定留学などに踏み出すことを期待しています。

| 交流大学                                                                                                  | 受け入れ予定      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
|  シーナカリンウィロート大学(タイ) | 4月17日～5月10日 |
|  ノースイースタン大学(米国)    | 5月 9日～6月 5日 |
|  南カリフォルニア大学(米国)    | 6月10日～6月28日 |

- ・応募資格 短期留学生の勉強と生活をサポートする熱意があること ※英語力は問いません
  - ・募集人員 制限なし ※各合宿参加者は選考
  - ・応募方法 次の応募書類を募集期間中に政治経済学部事務室に提出(書類は事務室に)
    - ①応募申請書
    - ②TOEIC又はTOEFLのスコアシート
  - ・応募期間 4月 8日～17日
  - ・合宿参加者への面接 4月20日
- ※合宿参加時のチャーターバス交通費、山中セミナーハウスでの宿泊費とハウス内での朝食・夕食代は大学が負担します

#### ✦ 「サポーター活動で得たもの」 経済学科3年 菊池 亮介 県立伊奈学園総合高等学校卒

「英語を上達させたい」。そんな単純な動機から参加したこのプログラムは、僕に期待を超える経験と出会いをくれた。とても親しみやすい留学生達と交流するにつれて、英語が目的から手段に変わった。「彼らともっと親しくなりたい。そのために英語を上達させよう。」その意識は、結果的に英語を学ぶ上で一番の近道となり、自分の吸収力が向上していった。英会話を滞ることなくできたときの喜びは、自分にさらなる自信と積極性を与えてくれた。そして、このプログラムで出会えた素敵な人たちが、その全てを支えてくれた。このプログラムに参加すれば、異文化へのためらいは無くなり、そしてなにより一生の出会いが得られることは、間違いないだろう。



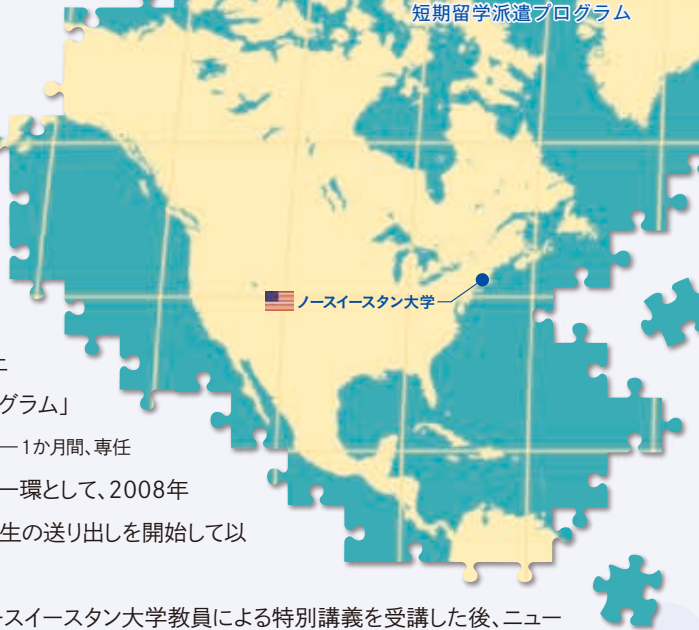
※本人右

## ノースイースタン大学 短期留学プログラム

ノースイースタン大学は、国際化と実験的教育をスローガンに掲げ、この4年で全米のランキング(US News & World Report)を、96位から56位まで急上昇させている大学です。政治経済学部では、この大学が行っている「国際交流プログラム」の中で最も人気が高い「文明との対話プログラム」(Dialogue of Civilizations) — 1か月間、専任教員に率いられた20名前後の学生が、特定の研究課題を外国で勉強し、4単位を修得する — の一環として、2008年度に短期留学生の受け入れを初めて実施しました。また翌年2009年度に本学部生の送り出しを開始して以来、毎年相互派遣を実施しています。

派遣プログラムにおいては、ボストンにある同大学に約3週間滞在しながらノースイースタン大学教員による特別講義を受講した後、ニューヨーク・ワシントンDCに立ち寄り、諸政府機関や博物館などを見学します。

なお、ノースイースタン大学は、本学部との相互派遣交流が高く評価され、毎年米国で国際化の進んだ大学数校に送られる Senator Paul Simon Award を受賞しました(2010年)。



#### ✦ ノースイースタン大学短期留学プログラム

- ✦日程(予定)  
2013年8月2日～30日(4週間程度)
- ✦特長
  - ・ボストンでは主にNU学生寮に滞在
  - ・ニューヨークとワシントンDCではホテルに滞在
  - ・ノースイースタン大で同大学教員による専門科目の特別講義を英語で受講
  - ・ボストン、ニューヨーク、ワシントンDCで歴史的建造物や政治経済関連諸施設等を見学
- ✦事前講座
  - ・6月に2日間、計4コマ実施
  - ・留学準備のため、現地での生活や授業の内容について学ぶ
  - また、渡航について旅行会社より説明
- ✦留学時講義内容
  - ＜全体テーマ＞Contemporary American Society and the World
  - ・アメリカの政治・経済・社会についての理解を深めるとともに、それらと日本・そして自分自身との関連を考える



- ＜2012年度参考＞
  - ・個別テーマ
    - The U.S. security policies
    - The U.S. employment and macro economics
    - The U.S. political system
    - The U.S. immigration policy ほか 合計6教科×3コマ受講
- ✦講義以外のプログラム
  - ＜2012年度参考＞
    - ①マサチューセッツ州議事堂【Boston】 ②ハーバード大学ツアー【Boston】
    - ③Fenway Park(Red Soxホームスタジアム)見学ツアー【Boston】
    - ④国連本部【N.Y.】 ⑤ブロードウェイ【N.Y.】 ⑥日本大使館【ワシントンD.C.】
    - ⑦世界銀行【ワシントンD.C.】 他
- ✦単位と評価
  - 帰国後、9月下旬に最終レポートを提出します。
  - ①事前講座、②短期留学、③最終レポートをセットとして評価し、評価がC以上の場合には4単位を付与します。
  - ・政治経済学部生 科目名称は「海外留学演習I・II」。取得単位はGPAに含まれます。※すでに他の「海外留学演習」に参加済みの場合は卒業要件外となる可能性がありますので、政治経済学部事務室に確認してください。
  - ・他学部生 各学部でご確認ください。
- ✦応募資格
  - ・募集人数：約20名(政治経済学部生中心。他学部からも若干名)
  - ・応募資格：1～4年生(2013年4月現在)で、以下のいずれかの条件を満たす者
    - ①TOEIC 550以上(学内IPテストを含む)
    - ②TOEFL iBT61以上、CBT173以上、PBT500以上(学内ITPテストを含む)

#### ✦ 「外国人との交流を通して」 政治学科2年 安東 公太郎 都立小石川高等学校卒業

このプログラムの魅力は外国人との交流が多いことだと思います。日本とアメリカ両方で交流のあるノースイースタン大学の学生たち、講義をしてくださる教授の方々、様々な訪問先で働いている方々、皆さんがとても貴重な話をしてくれます。特に大学での講義は多くの教授から「アメリカ人から見たアメリカ」を学ぶことができる素晴らしいチャンスです。また、1か月間を共に過ごす明治の学生とは一生続く関係を築くことができます。私自身、交流を通して英語を聞くことと話すことに抵抗はなくなりました。そして2回目の留学へ準備をしています。最初から一人で留学するのが不安な方、ぜひこのプログラムを自分のステップアップに利用してください。







# 延世大学 短期留学プログラム

「韓国で最も国際化の進んだ大学」「韓国三大大学の一つ」として名高い延世大学の原州(ウォンジュ)キャンパスにあるCollege of Government and Businessで、政治・経済・歴史・文化に関する英語の専門授業を約10日間 にわたって受講します。またソウルにある延世大学新村(シンチョン)キャンパスでも講義を受講するとともに、歴史上日本と関わりのある政治・文化諸施設と「38度線」非武装地帯の見学などを行う約2週間のプログラム内容です。受け入れプログラムについては、現在実施検討中です。

## 延世大学短期留学プログラム

### 目的

隣国である韓国の学習、及び韓国への短期留学を通して、韓国の政治・経済・社会・文化等の知識を深めるとともに、人的交流を図ること。

### テーマと内容

現代韓国の政治・社会・経済等の領域において生じる多様で複雑な諸問題を、公共政策を切り口にして学ぶ。

### 特長

- ・協定校延世大学原州キャンパスにて、英語で行われる専門講義を聴講
- ・ソウルで政治経済に関わる施設訪問(非武装地帯を含む)

### 日程(2012年度参考)

- ・2012年8月30日(木)～9月14日(金)
- ・教員が引率
- ・延世大学原州キャンパスでは延世大学生も住む学生寮に滞在(2人一部屋)
- ・ソウルではホテルに滞在(ツインルーム予定)
- ・延世大各教員による英語による専門講義。原州キャンパスでは延世大学学生が受講する一般講義を聴講。新村キャンパスでは特別講義を受講。
- ・ソウルでは景福宮、塔ブゴル公園など周辺の諸施設・史跡等を見学
- ・第三トンネルほか非武装地帯ツアーに参加

### 事前講座(予定)

- ①極東政治 ②日韓の歴史 ③韓国の経済等 ④日韓の比較文化
- +旅行会社によるオリエンテーション \*6月の土曜日(2日間4コマ)実施

### 留学時講義内容<2012年度参考>

- ・延世大学 College of Government and Business の英語講義を聴講(27科目より10コマ分選択)
- Macro Economics, Europe Region Studies, Korean Government and Politics, Society and Culture in East Asia, East Asian International Relation, Japanese Politics, US-East Asia Relations, International Economics ほか

### 講義以外のプログラム

- ①ソウル市内見学(博物館、青瓦台他) ②38度線見学ツアー(催行可能な場合) など

### 単位と評価

帰国後9月下旬に最終レポートを提出します。

- ①事前講座 ②短期留学 ③最終レポート

をセットとして、C以上の評価の場合には2単位を付与します。

- ・政治経済学部生 科目名称は「海外留学演習Ⅰ」を予定。取得単位はGPAに含まれます。
- \*すでに他の海外留学演習に参加済みの方は確認してください。
- ・他学部生 各学部でご確認ください。

### 応募資格

- ・募集人数：約20名(政治経済学部生中心。他学部からも若干名)
- ・応募資格：1～4年生(2012年4月現在)で、以下のいずれかの条件を満たす者
- ①TOEIC 550以上(学内IPテストを含む)
- ②TOEFL iBT61以上, CBT173以上, PBT500以上(学内ITPテストを含む)
- \*韓国語能力は問いません



## 「韓国短期留学を通して」 経済学科2年 小林 英里佳 私立大妻高等学校卒業

今回、私にとって3回目の韓国でしたが留学生として訪れるのは初めてでした。初めに訪れた大田では忠南大学の生徒と交流し、韓国の伝統的遊びなどを体験しました。次に訪れた延世大学は自然が多く施設も充実していて、勉強をするには最高の環境でした。そこでは英語で行われる様々なテーマの授業から自分で興味のある授業を選んで受け、学生と英語で交流しました。志の高い学生が多く、多くの刺激を受けることができました。また英語での生活をしたことで、英会話に対する抵抗感・違和感がなくなり、自然と会話できるようになりました。短期間で、旅行では得られない出会い・経験・発見をすることができ、とても充実した16日間でした。



※本人右から2番目



# シーナカリンウィロート大学 短期留学プログラム

東南アジア、特にタイに強い「グローバル人材」育成を目指して2011年にできたプログラムです。交流先であるシーナカリンウィロート大学は、シリントーン王女も学んだ由緒ある国立大学。チュラロンコン大学、タマサート大学等とともにタイで初めて作られた国立大学の一つで、当初は教員養成を目的に創設されましたが、今はバンコクの中心にキャンパスを持つ、総合大学として知られています。

2011年度に第一回目の短期留学生受け入れを実施し、本学部教員による英語での特別講義を受講するほか、社会施設見学として、タイ大使館や国会議事堂、企業見学として時事通信社やNTTドコモなどを訪問しました。また本学部生とセミナーハウスでの合宿も行い、学修の研鑽を積みながらお互いの交流を深めました。

派遣プログラムは2012年度に初めて実施されました。バンコクの中心部にある同大学にて英語で専門講義を受けるとともに、タイに拠点を置く日系企業を各社訪れて日本とタイの経済的結びつきを理解しました。また、JICAや国連機関などの諸機関を視察する機会もありました。国際インターンシップの機会も視野に入れたプログラムです。

## シーナカリンウィロート大学短期留学プログラム

### 派遣予定

- ・日程：2013年8月3日(土)～9月2日(月)
- ・全体テーマ：東南アジア等で活躍できる「グローバル人材」の育成を目指す
- ・留学先：シーナカリンウィロート大学(バンコク)

### 特長

- ・大学近くのアパートメント・ホテルに滞在
- ・経済公共政策学部と社会科学部を中心に、英語による特別講義を受講
- ・世界遺産アユタヤ訪問
- ・タイ語初級クラスに参加
- ・企業訪問、周辺諸施設を実施
- ・各業種のタイ進出日系企業、JICA関連施設、タイ政府関連施設など

### 事前講座

- ・タイの政治経済、言語を中心に6・7月に2日間x4コマ実施(旅行会社によるオリエンテーション含む)

### 単位と評価

9月下旬に最終レポート提出します。

- ①事前講座、②短期留学、③最終レポート

をセットとして4単位を付与

- ・政治経済学部生 科目名称は「海外留学演習Ⅰ・Ⅱ」を予定。取得単位はGPAに含まれる。
- \*すでに他の海外留学演習に参加済みで4単位修得の場合は、卒業単位外となります
- ・他学部生 各学部でご確認ください。

### 応募資格

- ・募集人数：約20名(政治経済学部学生中心。他学部からも若干名)
- ・応募資格：1～4年生(2012年4月現在)で、以下のいずれかの条件を満たす者
- ①TOEIC 550以上(学内IPテストを含む)
- ②TOEFL iBT61以上, CBT173以上, PBT500以上(学内ITPテストを含む)
- \*タイ語能力は問いません



## 「Seeds of Progress」 政治学科3年 友村 真美 私立筑紫女学園高等学校卒業

大学3年の夏、就職活動を目前に控えた時期でもあり、このプログラムへの参加は非常に悩ましい決断でした。しかし、結果としてこの一ヶ月間の経験は大変貴重なもので、タイに留学できたことを心から感謝しています。特に、同年代との仲間たちとの共同生活は自分自身、そして自分の将来を振り返る契機になりました。また、現地での授業、企業や各機関への訪問は、英語力だけでなく国際理解・知識をもっと学ばねばならないという課題発見に繋がりました。タイは文化の土壌も豊かで、現地の生徒たちもホスピタリティに溢れた素晴らしい方々ばかりです。何事も自分の目で見なければわからない、そんなことを実感できた夏だと思います。



※本人中央



# 協定留学(大学間・学部間)・認定留学制度について

明治大学には専門分野を学ぶ目的で、大学に在籍をしたまま最長1年間留学する制度として、協定留学・認定留学という二つの形態があります。これらの留学制度には、留学先で修得した単位は、一定の条件のもとで本学の卒業要件単位として認定申請ができるなどのメリットがあります。



## ✦ 協定留学

協定留学とは、本学が留学の協定を結んでいる協定校に留学する制度です。明治大学は2013年2月現在、40か国200を超える大学との大学間または学部間協定を締結しています。これらの協定校のうち、学生交流を行う覚書を取り交わした大学と学生を交換するのが協定留学制度です。留学先機関における教育課程は、本学所属学部教授会又は研究科委員会の認める過程とします。留学先機関の授業料は原則として免除されます。この協定留学の一つとして、学部が独自に留学の協定を締結した学部間協定留学があります。

※PI4で政治経済学部の協定留学参加者を紹介しています。

## ✦ 認定留学

一方、認定留学とは、一定の条件を満たしていれば、学生が独自に見つけてきた高等教育機関等への留学を認める制度です。修得してきた単位は、協定留学と同じく一定の条件のもとで本学の卒業要件単位として認定申請できます。政治経済学部のプログラムの中では、UCバークレー・サマーセッションがこの留学形態に含まれます(10週以上参加した場合)。ただし、本学と留学先大学両方の学費を納付する必要があります。

## ✦ 政治経済学部の学部間協定留学

シーナカリンウィロート大学(タイ)とは2012年度に、経済公共政策学部と社会科学部の二学部との交換留学プログラムがスタートしました。最大1年間、本学部生が同大学のどちらかの学部で修学すると同時に、シーナカリンウィロート大学の学部生も本学部にて修

学します。留学先で修得した単位は、本学部の卒業要件として単位認定の申請が可能です。また2013年度より人文学部との学部間協定を実施予定です。

### 🇹🇭 シーナカリンウィロート大学

- ・留学期間: 最長1年間
- ・学 年 歴: 2学期制 1st Semester 6月初旬開始  
2nd Semester 11月初旬開始
- ・応募可能人数: 各学部とも3名 \*人文学部については予定
- ・応募方法: 志願書、誓約書、英語関連資格(TOEFL, IELTS)を提出。
- ・選 考: 上記提出書類の内容とGPA、面接によって総合的に判断



### 🇹🇭 チュラロンコン大学

- ・学部間協定を締結し、2013年度より交換留学実施予定

## ✦ 「初めてのタイ」 経済学科3年 山下 大地 鎌倉学園高等学校卒業

タイに来てみると、日本で抱いていたタイのイメージが払拭されました。バンコクは鉄道の整備がなされており便利性和古いアジアの面影を残した、とても刺激的な街になっています。キャンパスもバンコクの中心街に位置しており、アクセスがとても良いところです。現在私は、SWUで全授業を英語で受けています。所属学部以外の授業も選択できるので学べる分野はかなり広いものとなっています。また、多くの学生が英語に堪能で自分にとっても良い刺激となっています。タイ語の勉強は、こちらに来てから始めましたが、最近では友人との会話をほぼタイ語だけで出来るくらいまでには上達しました。留学を迷っている方にはぜひタイでさまざまな経験をしてほしいと思います。



## ✦ 明治大学学生外国留学奨励助成金

協定留学又は認定留学の制度を利用して留学する学生に対し、選考の上、助成金を支給する制度です。返還のない給付型の助成金です。

- 支給金額:** ①留学経費助成金:30万円以内  
助 成 対 象:申請資格を満たす協定留学者及び認定留学者  
②留学授業料助成金:留学先機関の授業料(申請費用や登録費用は含まない)  
助 成 対 象:授業料免除の取り決めが協定上ない協定校への協定留学者及び認定留学者

※ただし、日本円換算、本学へ納入する授業料と同額を上限とする。



他に、明治大学連合父母会海外留学助成金という制度もあります。一人20万円以内の助成金が支給されます。

これらの制度の申請時期や申請、受給手続きなど、また留学に関わる外部団体の奨学金情報については、本学ウェブサイト「国際連携・留学」ページにある助成金関連ページを確認してください。

## ダブルディグリープログラム 2013年9月より開始見込み

21世紀の次の10年には、アジア太平洋地域はグローバル経済発展の中核地域となり、国境を超えた経済・社会・文化活動が、我々の予想をはるかに超えたスピードで展開されることは間違いありません。こうした歴史的な地域構造転換の中で、地域内の多様な文化に対する鋭い感受性と洞察能力を備えながら、同時に、自らの意見を明確に表明し実行しうる能力を備えた人材、いわゆる「グローバル人材」を生み出すことが強く求められています。このような人材を生み出すべく、過去5年間にわたって連携を深めてきた米国ノースイースタン大学社会・人文学部をパートナーとする学部間「ダブルディグリー・プログラム」を実現し、「国際的教育の協働プラットフォーム」の構築を目指しています。

「ダブルディグリープログラム」では、明治大学の学生は4セメスターの間ノースイースタン大学に在籍し、所定の単位を修得することで、同大学の学位を習得できます。また、在籍中に「Co-op」と呼ばれる、1セメスター間の有給インターンシップ・プログラムに参加し、アメリカ社会での実践的な社会経験を積みます。

同様に、ノースイースタン大学の学生は、4セメスター分政治経済学部にて在籍し、所定の単位を修得することで、明治大学の学位を修得できます。また、学部が提供する「地域研究インターンシップ」あるいは「企業実習」に参加し、日本社会での実践的な経験を積むことが可能です。

## ✦ 学部間ダブルディグリー・プログラムのイメージ





## トップスクールセミナー(国内留学体験)

政治経済学部では、世界有数の大学から教員・研究者を客員教員・特任教員として短期間、あるいは数年間日本に招聘し、政治経済学部の専門科目の一部を担当いただいています(使用言語は英語)。これにより、

日本にいながら特別な費用がかからず世界の「トップスクール」での授業を受け、学問に対する興味や視野を広げることができます。また将来の留学に向け「留学体験」ができる貴重な機会にもなります。

### ✦ 2013年度 海外客員教員・特任教員講義予定

- ✦ 世界の「トップスクール」に所属する教員を、客員教員・特任教員として招聘。英語による短期集中講義(客員)及び半期科目(特任)を開講
- ✦ 履修登録期間に単位履修。授業内容は通常シラバスで確認可能
- ✦ 2013年度実施予定は以下の通り ※変更になる可能性あり



1.所属大学と役職 2.専門分野 3.授業科目(予定)

| 客員教員(短期集中科目)                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 前期                                                                                                                                                                                                                                         | 後期                                                                                                                                                                                                                 |
|  <b>WILLNAT, Lars (ウィルナット, ラース)客員教授</b><br>1. インディアナ大学(USA)ジャーナリズム学部 教授<br>2. グローバル化とメディアの役割・アジアにおけるメディアと世論<br>3. (1)国際コミュニケーション論(2単位)<br>(2)メディアと世論(2単位) |  <b>TALLBEAR, Kimberly (トールベア, キンバリー・M)客員准教授</b><br>1. カリフォルニア大学バークレー校(USA)専任講師<br>2. アメリカ先住民・フェミニズム・科学技術と環境<br>3. 地域行政特殊講義(2単位)  |
|  <b>MCKEAN, Margalet A. (マッキーン, マーガレット)客員教授</b><br>1. デューク大学(USA)政治学部 名誉教授<br>2. 比較政治論・政治制度論<br>3. 国際地域研究基礎論(2単位)                                        |  <b>FINNEY, Carolyn M. (フィニー, キャロライン・M)客員准教授</b><br>1. カリフォルニア大学バークレー校(USA)専任講師<br>2. アフリカ系アメリカ人・フェミニズム・環境政策<br>3. 地域行政特殊講義(2単位) |
|  <b>LEW, Kwang-Soo (ユ, ガンス)客員教授</b><br>1. 延世大学(韓国)行政学部 教授<br>2. 比較政治論・政治制度論<br>3. 政治学特殊講義(2単位)                                                          |  <b>SCHEFOLD, Bertram (シェフォールド, ベルトラム)客員教授</b><br>1. J.W.ゲーテ大学(ドイツ)教授<br>2. 経済理論・経済学史<br>3. 経済学特殊講義(2単位)                        |

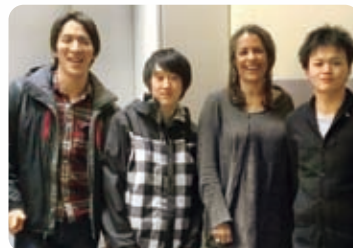
| 特任教員(半期・通年科目)                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <b>TOPALOFF, Liubomir K. (トパロフ, リュボミール・K)特任講師</b><br>1. ノースイースタン大学(USA)博士課程修了後、現職<br>2. テロリズム・EU政治 ほか<br>3. 和 泉各2単位 (1)前期 基本演習 (2)後期 政治学特殊講義II<br>駿河台 各4単位 (3)前期集中 国際関係史 (4)後期集中 比較政治論 |  <b>ARMSTRONG-HOUGH, Mari J.(アームストロング=ホフ, メアリー・J)特任講師</b><br>1. デューク大学(USA)博士課程修了後、現職<br>2. 医療社会学・比較社会学<br>3. 和 泉(1)通年 教養演習(2単位) (2)後期集中 社会学(4単位)<br>駿河台 (3)前期集中 比較社会学(4単位) |

- ✦ **履修方法・単位の取扱いについて**  
通常の履修登録期間(4月下旬)に、通常の履修登録方法(Web)で履修登録ができます。単位の取扱いについても他の科目とルールが異なる点はありません。他学部生が履修する場合は、他学部履修科目となります。各学部の他学部履修の方法に従って履修登録をしてください。

- ✦ **定期試験・成績評価について**  
客員教員による短期集中授業は正規の定期試験期間には、定期試験は行いません。各授業の最終授業に試験を実施したり、レポートや小テストを課したりなど、取扱いが授業により異なります。

### ✦ 「いざ、世界のTOPレベルの授業へ」 地域行政学科3年 山口 真人 私立流通経済大学付属柏高等学校卒業

“Masato, what do you think?”トップスクールセミナーでは、個人の発言が求められる。授業前に30ページ以上の英文を読み込み、先生がとてつもない速さで述べたことを聞き取り、自分の考えを英語で述べる。自分は海外で仕事がしたいと思っていたので、この授業を受講した。授業では意見を求められても、伝えたいことが伝わらなかった。英語を「使う」ことがこんなに難しいのかと落胆した。しかし、つたない英語で先生に自分の意見をぶつけてみると、先生が熱心に答えてくれた。「発言、ありがとう。授業は、学生と教授との議論の場」と述べる。どうやら、世界のTOPスクールでは学ぶことに対する主体性が大切らしい。英語を使って本気で学べる環境がここにある。



※本人左から2番目

## ACEプログラム(英語学習)

ACEとは“Advanced Communicative English”の略で、通常の英語クラスとは別に設けられた政治経済学部独自のプログラムです。これは英語能力が高い人だけを対象にしているわけではありません。ACEを通じて意欲的に英語力を高めたい、そして数年後には、留学や、英語を必要とする職業に就くのに、自信が持てるレベルに達する努力をする人たちのクラスです。

2011年度より選抜方法が採用され、1年生は4月のガイダンス期間中に統一テストを実施して選抜します。1年生後期及び2年生以降については、TOEIC520点以上の取得者が履修対象者となります。



### ✦ ACEの5つのポイント

#### 1. コミュニケーション能力を重視

ACEでは、コミュニケーション能力の向上を最重視しており、英語で「会話する」機会が多くあります。

#### 2. 独自の英語学習方法を実践

「ミュージカル」、「英語でのプレゼンテーション」、「独自に開発した英語学習コンピュータソフト」など、ほかではなかなか体験できないACEならではの英語学習方法を実践しています。

#### 3. TOEIC®・TOEFL® の対策授業を実施

就職活動で重視されている「TOEIC®」、留学には欠かせない「TOEFL®」の対策授業を実施します。

#### 4. 授業外での活動・交流が活発

ACEではグループによる作業が多く、授業時間以外にも学生同士・教員との交流が盛んです。学生が自主的に合宿やパーティーなどを企画することもあります。

#### 5. 卒業生とのつながりが強い

ACEの卒業生には、ACEで培った英語力を生かして、さまざまな分野で活躍している方が沢山います。これまでも在学生が企画した卒業生との交流イベントなどを行ったりしています。

### ✦ 授業内容紹介

#### ACE I (Content-oriented)

英語以外の対象分野(たとえば歴史、文化、政治等)の専門家による、英語による授業

#### ACE II (Communication-oriented)

コミュニケーション能力を重視した授業。たとえば日常会話、プレゼンテーション、劇、ディベートなど

#### ACE III (TOEFL/TOEIC Preparation)

TOEFLとTOEICのスコアを上げるための授業

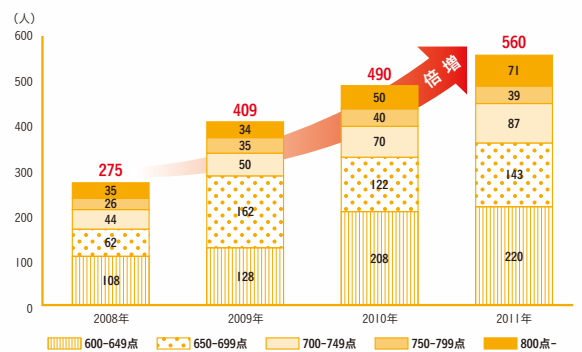
#### ACE IV (Self-study)

独自に開発した英語学習ソフトウェアを利用した自習中心の授業

#### ACE Presentation Skills

アカデミックな内容を、英語文献などを使ってリサーチし、英語によるプレゼンテーション能力、質疑応答などにスムーズに対応できるかなどをチェックする授業。単位数・成績・TOEIC・TOEFLあるいはIELTSほか検定試験のスコアなどの一定条件を満たした学生のみ履修可。

#### ✦ 政治経済学部におけるTOEICスコア600点以上の学生数分布(2008~2011年度)



- ✦ 「グローバル人材育成」に乗り出した2007年度の翌年度(2008年度)以降、TOEICスコアは着実に上昇
- ✦ 2011年度には、600点以上の得点者は2008年度の約2倍を達成

### ✦ 「ACEプログラムについて」 政治学科3年 荒井 奈津子 私立跡見学園高等学校卒業

私が履修した授業の主な内容としては、映画を通して日常的な英語や文化を学ぶ、リーディング・ライティング能力を伸ばす、英語での効果的なプレゼンテーションやディベートを学ぶ、などがありました。ACEに積極的に参加することで英語を抵抗なく話せるようになり、これまでの短期留学やサポーター活動でもすぐに他国の学生と仲を深めることができました。TOEICのスコアは220点、TOEFL iBTも25点アップしました。課題や発表をこなしていく中で友達との信頼もでき、また数々のイベントを通して仲間と思い切り楽しむこと・周りを楽しませることなども学びました。ACEでの経験が留学の実現に繋がりましたし、ACEで学んだこと全てが現在の留学生活に活きています。



※本人右



## 実践的英語力強化

### ✚ カランメソッド

ヨーロッパ最大の語学学校「CALLAN SCHOOL」が開発したカランメソッドを活用したオンライン型の英会話学習です。政治経済学部にて2012年度に実験的に導入され、多くの学生のTOEICスコアがアップしました。

「英語脳」(英語に対するパターン認識と処理スピード)を徹底して訓練する学習法で、カランメソッドのレッスンでは、先生の質問に対して生徒が瞬時に答えることを繰り返すのに加え、先生が通常より速く喋る方法を探ります。この状況で生徒は常に先生の言葉に神経を集中せざるを得なく、また、先生のガイドにより強制的に

瞬時に答えていくことで、母国語で翻訳するプロセスを強制的にストップさせることとなります。これによって無意識のうちに反射的に英語を返答できる「英語脳」を訓練できるのです。

「英語脳」が形成されることにより、自分の持っている「英語力」(語彙・熟語・文法など)へのアクセススピードが格段に向上します。特に「これまで英語の勉強は沢山したけれど、英語が話せない、話す自信がない…」と痛感している方には最適な学習法です。

### ✚ 2013年度 新規開始プログラム

2013年度より、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の取組として、以下の実践的英語力強化プログラムの実施を計画しています。

**IELTS講座**

この講座は、留学に必要なIELTSスコア「6.5」を目指す対策コースです。受講生はIELTS 試験における重要分野に対する語彙を増やすと同時に、高いスコア結果を出すために必要となるテスト受験スキルを身に付けることができます。また、同講座では、効果的な自己学習方法を学び、語彙を強化するのに役立てます。

**英語短期集中EIENプログラム**

このプログラムは、短期間(1カ月間)の集中的な学習により、TOEFL iBTスコア「84」を目指すコースです。フィリピンにある語学教育機関「EEN AE」へ留学し、英語学習指導歴20年以上のカリキュラム担当者が明治大学のために特別に構成した英語学習プログラム(マンツーマン指導、1日8時間)を受講します。

### ✚ 英語資格試験関係

政治経済学部では、学費の中に含まれて納入された実習料を「学部教育振興費」と位置づけ、多様なプログラムに活用しています。その活用法の一つとして、以下の語学検定試験を無料で受検することができます。

**TOEIC試験(年1回)**

政治経済学部の学生は、1年生から4年生まで、TOEICの団体試験(TOEIC IP)を毎年1回、無料で受検することができます。一定の条件を満たした成績優秀者は、学部長表彰の対象となり、英語各科目への単位認定を行っています。

**IELTS(一人1回)**

TOEFLと同じく、英語圏の大学や大学院の留学時の英語力の指標として広く認められている英語運用能力試験IELTSを、公開会場(東京および横浜)で受検が可能になりました。一人1回のみ無料で受検可能です。

### ✚ 政治経済学部 留学派遣データ(2012年実績)

| 主催       | 国名               | 大学名                    | 参加人数 | 滞在期間      | 実施時期                | 宿泊形態        | 費用合計(万円)        |
|----------|------------------|------------------------|------|-----------|---------------------|-------------|-----------------|
| 政治経済学部   | アメリカ合衆国          | UCバークレー校サマーセッション       | 11   | 約1ヵ月半～3ヵ月 | 5月20日～8月10日         | 学生寮         | 約80～110         |
|          |                  | ノースイースタン大学             | 25   | 約1ヵ月      | 8月2日～30日            | 学生寮・ホテル     | 約45             |
|          | 韓国               | 延世大学                   | 9    | 約2週間      | 8月30日～9月14日         | 学生寮・ホテル     | 約13             |
|          | タイ               | シーナカリンウィロート大学(短期)      | 20   | 約1ヵ月      | 8月4日～9月3日           | サービスアパートメント | 約25             |
|          |                  | シーナカリンウィロート大学(学部間協定留学) | 4    | 最長1年間     | 6月1日授業開始            | アパートメント     | 現地生活費(金額は個人による) |
| 国際教育センター | フランス             | リヨン政治学院                | 10   | 約3ヵ月      | 2013年2月1日～4月20日帰国予定 | サービスアパートメント | 約50             |
|          | 夏期語学研修プログラム      |                        | 29   | 約1ヵ月      | 夏期休暇中               | 学生寮等        | プログラムによる        |
|          | 春期語学研修・短期留学プログラム |                        | 25   | 約1ヵ月～2ヵ月  | 春期休暇中               | 学生寮等        | プログラムによる        |
|          | 大学間協定留学          |                        | 6    | 最長1年間     | 派遣先大学の学歴による         | 学生寮等        | 現地生活費等          |

※1 上記費用は、2012年度プログラムの実績金額です(リヨン政治学院については概算額を計算)。2013年度以降は、プログラム費用の変更、為替の変動、航空運賃・保険料などの影響により、金額が異なる可能性があります。

※2 費用合計には、現地授業料、宿泊費、往復の渡航費、現地長距離移動交通費などが含まれます

※3 派遣先大学や滞在期間、実施時期等は、様々な事情により変更になる場合があります。

## 政治経済学部業種別就職状況

就職データを見ると分かりますとおり、政治経済学部の卒業生はさまざまな業界へと就職しています。学科による大きな差はなく、どの学科の学生であってもさまざまな将来が待ち受けています。若干の傾向として見られるのは、政治学科は「情報通信業(いわゆるマスコミ業界を含む)」、経済学科は「金融業・保険業」、地域行政学科は「公務」の業界へと就職す

る学生が他学科に比べると多いようです。ただし、就職活動においては、どの学科を卒業するのかわではなく、学生本人がどのような業界へ進みたいという希望を持ち、それに向けてどのような努力をするのかという方が重要であると言えるでしょう。

### ✚ 「英語は絶対的に必要なスキル」 経済学科4年 柳下 大輔 私立芝高等学校卒業 2013年度 大手メーカー入社内定

参加した留学プログラム ACE、トップスクールセミナー、協定留学(オレゴン大学[米国])

就職活動は、協定留学(交換留学)先のオレゴン大学からの帰国後、6月末から始めました。時間的には大きなハンディだと思われがちですが、留学から帰ってきた学生を採用するために、大手企業など150社以上が参加する、キャリアフォーラムを活用しました。私はそこで計3社から内定を頂くことができました。本当に短期間で決めることができたと思います。一年間協定留学(交換留学)していたということが、企業から他の就活生より経験をたくさん踏んだ、という風に見てもらえたのだと思いますし、そのようにアピールできたのだと思います。英語というのはもう特別なスキルではなく、絶対的に必要なスキルだと実感しました。大学に入って留学促進プログラムに参加し、英語や専門分野の勉強をしたことで、海外の学生会議やアフリカの難民キャンプ訪問などもすることができ、最終的には明治大学の協定留学(交換留学)制度を活用し、長期間の留学もできました。自分で実行して将来の夢へとつながるチャンスを取れるようになったことは、私自身にとって大きな成果だと思っています。



※本人左から2番目

### ✚ 政治経済学部業種別就職状況(2012年3月卒業生)

| 卒業生数              | 1,167 (260) |             |
|-------------------|-------------|-------------|
| 就職者数              | 921 (214)   |             |
|                   | 就職者数        | 就職者総数に対する割合 |
| 建設業               | 26 (2)      | 2.8%        |
| 製造業               | 153 (21)    | 16.6%       |
| 電気・ガス・熱供給・水道業     | 3 (0)       | 0.3%        |
| 情報通信業             | 109 (25)    | 11.8%       |
| 運輸業・郵便業           | 33 (11)     | 3.6%        |
| 卸売業・小売業           | 115 (37)    | 12.5%       |
| 金融業・保険業           | 231 (69)    | 25.1%       |
| 不動産業・物品賃貸業        | 37 (6)      | 4.0%        |
| 学術研究・専門・技術サービス業   | 26 (6)      | 2.8%        |
| 宿泊業・飲食サービス業       | 9 (3)       | 1.0%        |
| 生活関連サービス業・娯楽業     | 11 (4)      | 1.2%        |
| 教育・学習支援業          | 12 (0)      | 1.3%        |
| 医療・福祉             | 8 (4)       | 0.9%        |
| 複合サービス事業          | 5 (1)       | 0.5%        |
| サービス業(他に分類されないもの) | 24 (5)      | 2.6%        |
| 公務(他に分類されるものを除く)  | 95 (17)     | 10.3%       |
| その他               | 24 (3)      | 2.6%        |
| 自営・継続             | 6 (0)       |             |
| 進学                | 24 (6)      |             |
| 海外留学・各種学校入学       | 20 (9)      |             |
| 各種試験受験            | 38 (5)      |             |

※( )内数字は女子で内数、%は学部ごとの就職者数に対する割合(総数のみ)

※自営＝自家営業者、継続＝入学時より継続勤務している者

※卒業後の進路として「進路不明」の者などがあるため、就職者数・自営・継続・進学・海外留学・各種学校入学・各種試験受験を合計しても、卒業生数とは一致しません。

※表中のパーセンテージは四捨五入しています。

### ✚ 政治経済学部就職先30社(2012年3月卒業生)

| 企業名                              | 就職者数   |
|----------------------------------|--------|
| (株)みずほフィナンシャルグループ                | 15 (3) |
| リソナグループ                          | 10 (5) |
| 国家公務員 Ⅱ種                         | 10 (0) |
| あいおいニッセイ同和損害保険(株)                | 10 (4) |
| (株)千葉銀行                          | 9 (3)  |
| 東京特別区                            | 9 (2)  |
| 野村證券(株)                          | 7 (2)  |
| (株)三菱東京UFJ銀行                     | 7 (4)  |
| ソフトバンクグループ                       | 6 (2)  |
| (株)大和証券グループ本社                    | 5 (1)  |
| (株)三井住友銀行                        | 5 (1)  |
| 警視庁                              | 5 (1)  |
| 三井住友海上火災保険(株)                    | 5 (2)  |
| 明治安田生命保険(相)                      | 5 (4)  |
| (株)京葉銀行                          | 4 (0)  |
| (株)東日本銀行                         | 4 (0)  |
| 東京都庁                             | 4 (1)  |
| アメリカンファミリーライフアシュアランスカンパニーオプコロンバス | 4 (0)  |
| 第一生命保険(株)                        | 3 (2)  |
| 東日本旅客鉄道(株)                       | 3 (2)  |
| (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ                  | 3 (1)  |
| 凸版印刷(株)                          | 3 (0)  |
| エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)           | 3 (0)  |
| 日本電気(株)                          | 3 (0)  |
| アステラス製薬(株)                       | 3 (2)  |
| (株)七十七銀行                         | 3 (0)  |
| 埼玉県警察本部                          | 3 (1)  |
| 埼玉県庁                             | 3 (0)  |
| 神奈川県庁                            | 3 (0)  |
| 郵便局(株)                           | 3 (1)  |

※( )内数字は女子で内数